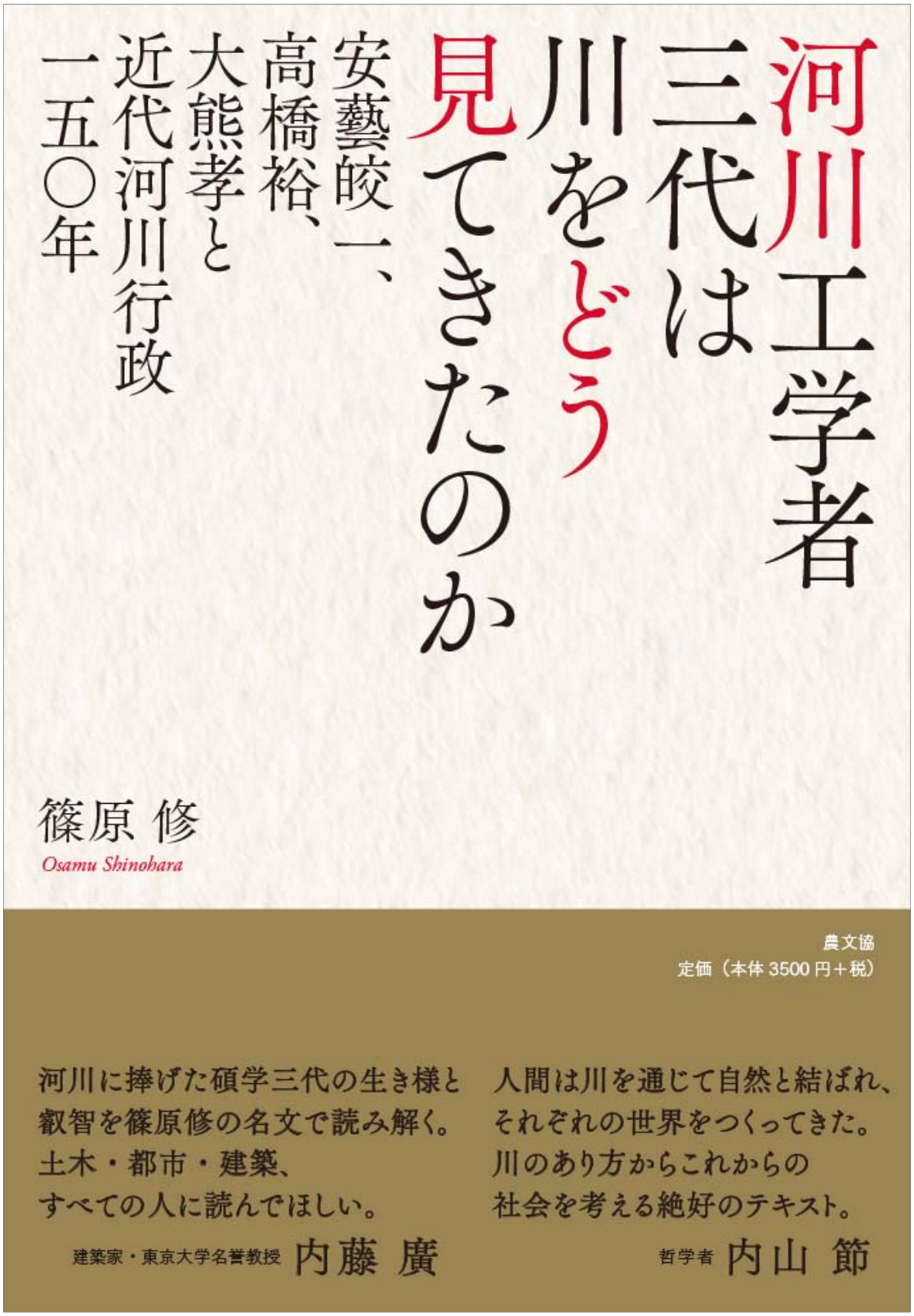
2018年3月 堂々完成！



著者プロフィール……篠原修：1945年生まれ。東京大学工学部土木工学科卒。東京大学および政策研究大学院大学名誉教授。工学博士。GS（グラウンドスケープ）デザイン会議代表。エンジニア・アーキテクト協会会長。著書『土木造形家百年の仕事』（新潮社、土木学会出版文化賞受賞）『土木デザイン論』（東京大学出版会、土木学会出版文化賞受賞）『都市の水辺をデザインする』（編共著、彰国社）ほか多数

現場から、歴史から川を見つづけた河川工学者三代＝安藝皎一、高橋裕、大熊孝。彼らの生涯を描くことを通じて、近代河川行政の到達点と課題を明らかにし、環境・景観・自治の河川を展望する。河川に関心をもつすべての人にとって必携の書。

発行：農文協プロダクション　発売：農文協　四六判 447 頁（年表・索引あり）　定価：本体 3,500 円＋税

【目次より】

内務省河川行政の時代……序章　川との付き合い方、議論のポイント／第 1 章　内務省土木局の河川行政／第 2 章　安藝皎一の登場／第 3 章　ＴＶＡと河水統制事業、宮本武之輔

復興・高度成長と河川……第 4 章　戦後大水害の時代（昭和二〇～三四年）／第 5 章　高橋裕と安藝皎一の出会い／第 6 章　水害論争／第 7 章　教授・高橋裕／第 8 章　高度成長時代の河川行政（Ⅰ）／第 9 章　河川工学者・大熊孝の出発／第 10 章　大熊と宮村忠、虫明功臣／第 11 章　高度成長時代の河川行政（Ⅱ）

環境・景観・自治の河川へ……第 12 章　大熊孝、長岡へ／第 13 章　高橋裕の土木学会／第 14 章　市民工学者・大熊孝／第 15 章　環境・景観対応の河川行政／第 16 章　河川行政、残された課題

【はじめにより】

……大熊は専門外の人間は知らないであろうが、河川の分野では知られている人物である。特に脱ダム派の学者として。ただし有名になったから書こうとするわけではない。DR 論文以来一貫して建設省、国交省の河川行政を治水計画の観点から批判し、とりわけて優れているのは、地道な現場調査と考察に基づいて「大熊河川工学」を築き上げたことである。更に言えば、時の権力や権威におもねる事なく「拙」を貫いてきた姿勢に共感を覚えるからである。「拙」という生き方は筆者が最も尊敬する夏目漱石が最も重視していた姿勢であった。

……大熊に聞き、資料を調べると、大熊のような人物が俄かに出てきたわけではない事に気づかされる。大熊の先生である高橋裕も建設省の河川行政に批判的な学者で、大熊は高橋の講義に触発されて河川の途を選んだのだった。高橋無くして今の大熊は無いのである。その高橋に聞くと安藝皎一先生が居なければ、河川をやっていなかったと言うのである。やはり高橋も安藝に惹かれて河川の途を歩み始めたのであった。かくして大熊を描こうと考えた評伝は、必然的に安藝、高橋、大熊の河川工学者三代の評伝となった。

……どうせ書くなら安藝が、高橋が、大熊が批判の対象とした明治以降の近代河川行政とはいかなるものだったのか、それを知りたくなる。必ずしも安藝以下の批判が常に的を射ているかどうかは分からないが、それも筆者なりに判断してみたい。「やめたほうが」という声が耳元に響いた。一応土木工学科で学んだとは言え、河川については素人なのだから。

……でもやってみようか、という気持ちになったのは土木技術者の評伝を書いている作家が、おしなべて文系の出身で土木の理論や技術に疎く、肝心だと思われる点に突っこみが不足していると不満を感じていたからかもしれない。筆者は丁度、碁や将棋で言う「岡目八目」の位置にいる。全くの素人でもなく、プロの当事者でもない方が戦局がよく見えるという事もあり得る。こういう具合に自分を納得させて、無謀な執筆に取り掛かったのであった。

【大熊孝氏からのコメント】

河川行政を通史的に書いた本としては、西川喬著「治水長期計画の歴史」（財・水利科学研究所、昭和 44 年 11 月発行）ぐらいしか私は知りません。これは、昭和 39 年の河川法改正直後に書かれたもので、水資源の動向についてはほとんど触れていません。ましてや平成 9 年の河川法改正後の環境や景観を含めた、河川行政史はまだ皆無です。

篠原さんのこの本は、平成 9 年の河川法改正も踏まえた形で論述されており、画期的と言えるのではないかと思います。この本には、これまでの河川行政、河川工学に批判的な内容も書かれています。しかし、土木技術者の「心」――技術者としての良心・矜持はもちろんのこと当事者としてのつらさも含めて――とでもいうものを理解している、土木屋である篠原さんが書かれているという点でも画期的と言えるのではないでしょうか。

【申込先】

（一社）農山漁村文化協会（農文協）

電話：０３－６４５９－１１３１　ファックス：０３－３５８５－３６６８

■メールでもご注文戴けます（送料は何冊でも 400 円）

①品名、②冊数、③郵便番号　ご住所、④お名前、⑤ＴＥＬ（できれば固定）

をお書きの上、shop@mail.ruralnet.or.jp（農文協　読者係）まで。